

受講番号 19069 学校名 土佐山中学校 氏名 柳原 和代

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 6名
科目名 2年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 New Horizon English Course2

クラスの様子・特徴

全員が男子(6名)のクラスである。副担任であるが、10月下旬から2ヶ月間担任をした。授業態度は比較的まじめであるが、積極的ではない。特に全員がコミュニケーション活動や表現活動は苦手と感じている。

問題の確定

1時間の授業の中でCRTでやや弱い「表現力」をつけるため指導の工夫をし、積極的に学習できるようにしたい。

予備調査

A 授業の観察

家庭学習の習慣は半数は概ねついている。毎日のノート提出で全員に家庭学習の習慣をつけたい。生徒の音読の声は、全体としては大きく、個人で行う活動より、ペアや班などの活動や視覚に訴えるもの、音楽をクイズやゲームにすると活発な授業になる。

B 生徒による授業評価

1学期、授業の中で「読むこと」「書くこと」を大事にしてきたこともあり、この2技能は4月に説明していた目標点にほぼ到達した。1学期末のアンケートでは次のステップとして「話すこと」を中心に活動をしたいという希望が多かった。

C 学力データ

標準学力調査結果をみると観点別で学級平均は「理解の能力」が比較的高く、「表現の能力」「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」が低い。また学習活動では「英語検定の勉強」「ALTと積極的に話している」が低いので指導方法を工夫した。

リサーチ・クエスト

生き生きとした「音読活動」から「自己表現活動」ができるようになるためにはどのようにすればよいか。ゴール:(場面を設定した)関連性のある文を一場面につきALTと5文以上積極的に話せるようになること。

仮説・実践・検証

仮説1

授業の中で単語を覚えるための指導の工夫をすれば、自主的な学習に繋がり、自己表現するための単語力がつくだろう。

実践1

・予習のために覚えたい語句シート(新出語句、重要語句をまとめたもの)を作成し、毎日自主ノートを提出させ、点検し、教室に点検結果を掲示した。・フォニックスの練習と共に毎時間の授業の中で「読む」時間を多くした。・新出単語はスクランブル、クロスワード、逆読みなどで定着を図った。・毎時間、単語のテストをし、確実になるまで個別指導をし、不十分なときは宿題とし、翌日点検した。

検証1

・予習のために覚えたい語句シート(新出語句、重要語句をまとめたもの)を作成したことは、次の定期テストへの意欲づけに役立った。・毎日自主ノートを提出させ教室に点検結果を掲示したこと友だちからの声かけになり、クラスでやらなければという雰囲気になった。・新出単語はスクランブル、クロスワード、逆読みなどで定着を図ったことで単語学習を楽しみにするようになった。

仮説2

授業の中で音読練習の時間を多くとり、いろいろな音読の指導法を工夫すれば生徒が飽きることなく音読の練習ができ、「読む力」がつき、「自己表現力」へと発展するだろう。

実践2

・リズムによる音読の全体練習後、毎時間の音読練習が同じ方法にならないように色々な音読方法をとった。(対話読み、シャドウイング、役読み、グループ読みなど)・市販教材の「QA-100」を使って音読を繰り返し行った。(1〜50番までは暗記した。・「QA-100」のワークシート・CDを使い、ALTの協力もあって、音読から自己表現活動へ発展させていった。

検証2

・リズムによる音読の全体練習後、毎時間の音読練習を工夫したことで生徒が授業やリーディングを楽しみにするようになった。(対話読み、シャドウイング、役読み、グループ読みなど次はどのパターンなのかを予測しては楽しんでいた。・市販教材の「QA-100」を使って音読を繰り返し行った。(1〜50番まで暗記した後、次もやりたいと意欲的になった。・QA-100のワークシート・CDは効果があった。

仮説3

新出文型を学習した後にCAを授業の中で必ず入れていけば生徒の表現力につながっていくだろう。

実践3

新出文型を学習した後にCAを授業の中で必ず入れた。ALTに英会話、挨拶カード(個別の英語パスポート)にQAできるようにスタンプやシールを貼ってもらった。ALTも積極的に協力してくれ、休み時間や昼休みも生徒と楽しんでスタンプラリーをしてくれた。

検証3

・QA-100で基本練習をしていたので、基礎・基本が定着していたこともあり、表現活動が活発になり学校生活の多くの時間に英会話が聞かれるようになった。特にALTの来校する火曜日は1日中英語が聞かれるようになった。また、次はどのような話題にしようかと会話を楽しむ生徒が多く見られるようになった。2年生のみならず、2年生に対抗意識を持って3年生の一部がかえって張り切って会話する姿が見られた。

研究の成果

授業の中に1学期は「読むこと」2学期は「自己表現活動」の時間を多く取ったことは効果があり、学習活動が積極的になった。毎日の単語テスト、毎日の自主学習ノート提出と教室の掲示、ユニットごとの復習テストも基礎学力の向上に繋がり、少なくとも英語嫌いをなくすために役立った。また「何で英語をやらんといかんが?」と言う声が聞こえなくなった。授業中も笑顔が多くなり、楽しんで新しいことに挑戦しようという雰囲気が2学期末には見られた。

今後の授業改善の課題

2学期はじめには半数の生徒が宿題を理由に「英語が嫌い」というアンケート結果がでたが、書くことや宿題は欠かせないので持続して全員が学習するようにし向けて行く必要がある。毎日のノート提出をはじめ英語学習を習慣化していく工夫をしていく。そのことがひいては「真の学力」と結びついていくと思う。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-895-2017